

ボランティア・コーディネーターの活動

ボランティア・コーディネーター 西田 誠

特に新しいボランティアさんと、ご利用者をつなぐパイプ役として活躍されている西田さんよりコメントをいただきました。西田「今日私は何もできなかった・・・。」と初めて来るボランティアさんが良く言われますが、そうではなく「月1回でもいいので是非ボランティアに来て下さい。」といつも言っています。私自身「ボランティアをしてあげている。」というのではなく、「させていただいている。」という姿勢で取り組んでいます。そのベースには、感謝の気持ちの方が強いんですね。かえってご利用者の方々から「元気をいただいている。」という気持ちです。初めてのボランティアさんにはFamily（ファミリー）的な雰囲気この施設の空気をまず感じてもらうことと、笑顔で接することから始めています。そのために「また来てみたい。」と喜んで頂ける様に接してきました。様々なボランティアさんが来られますが、形式にこだわらず、ご利用者の状況により、臨機応変に活動内容を変えてもらうこともあります。



楽友会売店（模擬店）・喫茶コーナー



楽友会では、4階に、売店（模擬店）と喫茶コーナーが開店しています。売店は火・土曜日の午後開かれており、駄菓子、歯磨き粉、電池、テレホンカードといった日用品等の販売を行っています。喫茶コーナーは、年末年始を除き、ほぼ毎日午後1時半より開店しています。いずれもご利用者・ご家族の方々の憩いの場として不可欠なもので、火曜日に訪問販売に来荘するパン屋さんと並び、皆さんの楽しみの一つでもあります。売店・喫茶コーナーの開催に当たり、日々ボランティアさんの方々の御尽力に、心より感謝申し上げます。

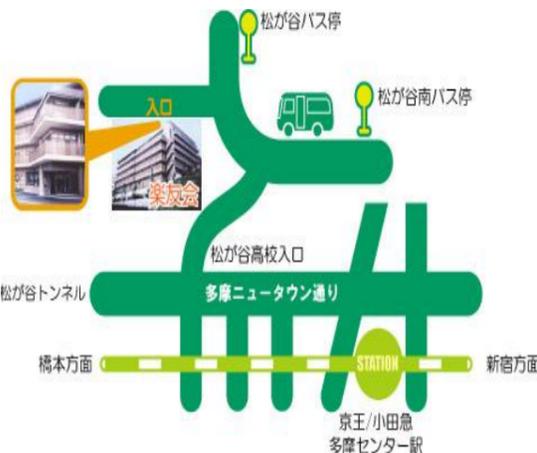


社会福祉法人 楽友会

東京都多摩市山王下1-18-2
TEL 042-374-4649 FAX 042-371-1562
HP(ホームページ) <http://www.rakuyuukai.com>

- ・特別養護老人ホーム 白楽荘
- ・軽費老人ホーム 偕楽荘
- ・多摩市白楽荘在宅サービスセンター（デイ部門・ヘルパー部門）
- ・白楽荘居宅介護支援事業所
- ・多摩市多摩センター地域包括支援センター

高齢者福祉のことならなんでもご相談ください



おおぞら



社会福祉法人
楽友会広報誌
平成23年 春
第28号

第28号 紙面案内

「理事長挨拶」……………1面	「寄稿～偕楽荘ご利用者より」……………3面
「白楽荘クラブの紹介」……………2面	「ボランティアコーディネーターの活動」……………4面
	「楽友会喫茶コーナー・売店紹介」……………4面

平成23年(2011年)

あけまして おめでとうございます

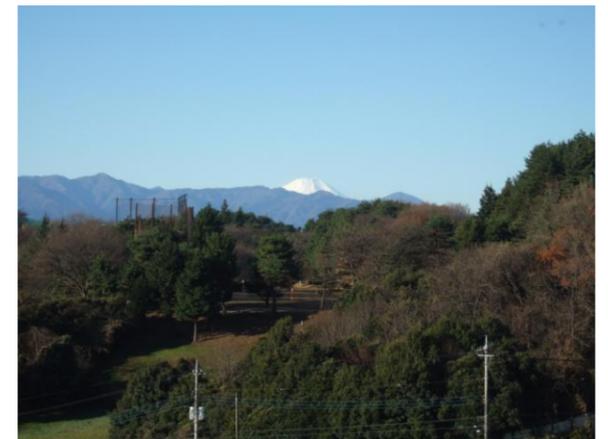
理事長 中村勝政



新年明けましておめでとうございます。希望に満ちた素晴らしい新春をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。さて、当法人が現在地に移転・改築して月日の経つのは速いもので、十余年が経過いたしました。その間、高齢者福祉に関わる施策の推移は介護保険制度を含め、めまぐるしいものがありました。その流れは、今年も継続していくものと考えられます。法人として、適宜対処していく所存です。

また、法人建物につきましても、経年劣化のため各所整備も必要になってきています。ご利用者の皆様をはじめ、ご家族・関係者の皆様へ安全・安心を提供していくのが何にも増して法人の使命です。

ハード面、ソフト面を含めまして、今年も法人・職員一丸となって鋭意努力して参ります。皆様にとりまして、本年も素晴らしい年となりますよう心より祈念いたします。



富士山を見渡せる眺望 施設7階より

白楽荘クラブ活動紹介

現在、白楽荘では、6つのクラブ活動を設けており、各々目標を立て、参加されるご利用者の楽しみや生きがい作りにつながる活動を行っています。クラブ活動の開催や活動にあたり、日々のボランティア様の甚大なる御協力に心より感謝申し上げます。

《書道クラブ》



毎月第1木曜日、午後から4階で書道クラブを行っています。毎月、先生がお手本を10種類程用意して下さり、その中から好きなものを選んで書いていただいています。お手本はその月々の季節の言葉があり、12月は「師走」「サンタクロース」「メリークリスマス」「山茶花（さざんか）」「納会」「こがらし」「小春日和」「大晦日」「忠臣蔵」「歳末」「除夜の鐘」「十二月二十

日冬至」「シクラメンの赤い花」がありました。月によっては半紙だけでなく、色紙や模造紙に書いており、1月はかき初めを行います。



年に2回、書道クラブの写真を撮り、各フロアーに貼り出しています。作品は毎月フロアーに掲示していて、ご家族も見ることが出来ます。利き手で書くことの出来ない方も、職員が手を添え一緒に書くことで、多くのご利用者が参加されています。（担当ケアワーカー 小泉 真美）



《手芸クラブ》



手芸クラブは、永山教会から毎月10名前後御来荘されるボランティアの方の協力のもと、その季節に合った飾り物や生け花など、簡単な作品づくりを行っています。また、毎年1月、5月、8月の3回は「お楽しみ会」として、ボランティアの方が三味線や歌、朗読などの出し物を披露して下さったり、全員でケーキや紅茶をいただいたりと、作品以外のことでも楽しんでいただける場を設けています。参加されたご利用者は、ひとつの作品



を仕上げることで、それを居室などに飾って楽しむことはもちろん、毎月来荘されるボランティアの方と色々な話をすることをとても楽しんでおり、毎月、笑い声の絶えない、明るい雰囲気の中で活動しています。

（担当ケアワーカー 門 亜里沙）



軽費老人ホーム偕楽荘 ご利用者からの寄稿



偕楽荘利用者 佐山 良

師走となりました。十二月八日と云えば、私たちの年代には忘れがたい、太平洋戦争の開戦です。あの日から、茫々七十年の歳月がすぎ去りました。そして今、東京都下の当地に暮らしていますが、福島県東白川郡塙町上石神井に、約六十年住みました。宅地の西の端に水郡線（国鉄）が走り、東と南はずっと先に人家が二軒ほど見える寒村です。事件らしいことは何もおこりませんでした。或る冬の夜私の家にも時々農作業を手伝ってもらっていた人が国道一八号脇の用水堀に落ちて溺死した事でした。今もその道を通る時私より二歳年下の彼の無念を思います。私には二つのふるさと懐かしい土地があります。もう一つは京都御所の近く上立売小川今もその地に住んでいる幼友達が「お良さん」と云って電話をくれます。いつも夢に見るのは、なつかしい母と、照ちゃんです。もう一人では出歩くのはむずかしい事になりました。もう一度だけだれかに連れて行って欲しいと思っています。



「幸せの中にいて」 偕楽荘利用者 松本 宥子

私が歳を重ねて来たせいか、今年の喪中はがきが十通にもなった。殆ど八十歳以上の高齢者の訃報である。自分もその歳になっているので、他人事とは思えずその人たちの思い出をたぐりながら、寂しさを噛みしめていた。長生きをしていれば、様々な不安に出遭うかも知れないと分かっている、変わらない明日があると、当然のように思ってしまう。

私はこの施設に入って四年余りになった。今ではすっかり慣れて快適に過ごしている。寝食を共にしている私達は、格別の親しみが生まれている。今までの人生でこれほど気楽な時は無かった。これも職員の方々の行き届いた対応に見守られているお陰である。外への出入りにも一言交わす挨拶に心が和む。一人暮らしでは到底味わえない心境である。六畳一間の自室が、何処よりも安らぎの場所になっている。これからも元気で前向きに、笑顔で過ごしたいものと願っている。



新生・道端の花の会（偕楽荘クラブ活動）



昨年10月より、新しく恵泉女子学園大学の宮内泰之先生をお迎えして、活動が再スタートしました。道端の花の会はお花のお好きなご利用者の皆さんが、自主的に楽友会前の歩道の花壇の土を起すところから始められ、丹念に手入れをされて季節ごとにお花を咲かせ、道端を歩く人々が癒される、そんな願いから長く続けられているクラブです。

先生や学生さんのお力をお借りして、お花のためのより良い環境作りから始めましょうということで、まず伸びてしまった木を刈ることや草取りをしました。そして春に咲き揃ってほしいと願いを込めながら、沢山のチューリップの球根をご利用者の皆さんと植えました。今までご利用者の皆さんで作上げてきた心と道端の花壇が、ますます華やかになっていく様頑張りますので、あたたかく見守っていただきたいと思っております。